

新潟県小学校教育研究会  
**会 報**

全  
会  
員  
配  
布

編集発行：新潟県小学校教育研究会事務局  
〒950-0908 新潟市幸西3-3-1(新潟会館2階)  
電話 新潟(025)290-2231  
FAX 新潟(025)245-6060  
<http://www.niigata-inet.or.jp/k-shoken/>  
E-mail k-shoken@niigata-inet.or.jp  
印刷：(株)第一印刷所  
電話 新潟(025)285-7161



子供の目が  
キラキラと輝く学習を目指して

新潟県小学校教育研究会

会 長 山 岸 宏

平成14年度からの新教育課程の完全実施に向けて、各学校では着々と準備が進んでいます。新しい教育課程の枠組みの中で、基礎基本の確かな定着や「総合的な学習」をどう進めるかが学校における教育改革の目玉です。学校完全週5日制による授業日数の削減に伴い、指導内容が大幅な削減となることから、「学力低下」への心配が保護者に、そして社会にあります。学習内容が減っても、基礎基本の確かな定着が実現できれば学力低下はないというのが文部科学省の考えの基本にあります。しかし、そのためには子供一人一人に基礎基本を確実に身に付けさせる、プロとしての指導力がそれぞれの教員に求められます。

今春の高校入学試験に小学校で学習した内容の問題が出題され、正解できない受験者が多数あったと論議を呼びました。

それでは、子供一人一人に基礎基本が確実に身に付くために、どのような学習指導が求められるのでしょうか。その一つは、子供が学習していることに興味関心が湧いて、思わず学習に引き込まれるような工夫が必要です。そして、感動を生む学習を展開することです。平板な学習展開ではこれが生まれません。しかし、そのために誇張し過ぎたり、わざとおもしろおかしく繕ったりする必要はありません。子供の身近な生活に結び付けて、教材の本質につながる問題意識を感じさせる学習を工夫していくことです。二つには、学習したことを生活や次の学習につなげていくことです。「総合的な学習」の意義もそこにあります。「総合的な学習」は教科の学習がどこかで生きるという漠然とした考えではなく、教科の学習を活用していくという意識で活動を展開しなければなりません。本会で継続して取り組んでいる学習指導改善調査研究事業はこれらの問題に対する各学校の、そして自らの学習指導を問い直すものです。

今秋、本会の指定研究校の発表会が4校で行われます。松之山小学校の「道徳」、石川小学校の「国語科」、川口小学校の「生活科」、川東小学校の「特別活動」です。新学習指導要領の趣旨が具現される発表になると期待をしています。これらの学校の実践から多くを学び、各学校の新たなものにぜひとも生かしていきたいものです。